小倉南区　Ｒ８Ｘ方針

1　組織の使命（どのような役割を担うのか）

　区民に一番近い行政機関である区役所は、区民一人ひとりに寄り添い、快適な行政サービスを提供することは当然として、これまで以上に地域に入り込み、地域との関係を強化することにより、区民ニーズを的確に捉え、区政・市政に反映させるとともに、各地域の実情に応じた新たな持続可能な地域コミュニティをデザインする。
　また、観光振興や企業立地支援等、市の様々な事業に「地域の力」を活用する（掛け合わせる：Ｘ地域）ことにより、シナジー効果を狙うとともに、事業の合意形成やスムーズな進行に貢献する。
　併せて、「スマらく区役所サービス」定着後の新たな区役所のあり方を検討し、その実現に向けチャレンジする等、「区役所の一歩先の価値観」を体現するための実験場となる。

2　基本情報

（1）令和8年度局全体当初予算額

記載不要

（2）組織（課名）（R8.4.1付）

総務企画課、コミュニティ支援課、市民課、国保年金課、まちづくり整備課、保健福祉課、保護課
曽根出張所、両谷出張所、東谷出張所

（3）所管の政策連携団体

なし

（4）所管の主な公共施設（運営方法：直営）

区役所、出張所（曽根、両谷、東谷）、市民センター（24ヶ所）

3　令和７年度局区X方針の振り返り

○全体の振り返り（総評）
• 「小倉南区X方針」で定めた三本の柱（①持続可能な新たな地域コミュニティづくり、②地域資源をフル活用して稼ぐ力を創出、③スマらく後の区役所業務の模様替えとまちづくり拠点化）を着実に推進するため、部署横断的に取組を実施したことで、小倉南区の成長の方向性が確認できた。 • ①について、多くの地元関係者と対話を重ねたことで、新たなコミュニティデザインにおける方向性や認識を共有することができた。 • ②について、さまざまな取組を通じて、稼ぐための道筋ができた。 • ③について、関係課による協議を踏まえ、コンセプトやゾーニングのたたき台を作成したことで、今後の方向性が見えてきた。
○変革が実現した課題・取組内容・市民にもたらされた効果
• これまでに拾いきれていなかった魅力的な食・自然・ひと等に注目し、SNSやマスコミを通じて、広く知ってもらう機会を創出した。 • 課題解決に向けて、防災に関してはワークショップ等を通じて、災害に強いまちづくりに向けた意識づけや危機感を醸成したことで、地域における防災意識が高まった。また、自転車盗対策の取組により、自転車盗認知件数を約100件減少することができた。 • 全校区キャラバン（全26校区・地区訪問）や小倉南区で初となるまちづくり主要団体役員による情報交換会を開催。地域ニーズや課題の把握、地元関係者との関係づくりに取り組んだことで、今後の新たなコミュニティデザインを考えるための機運が醸成された。

○取組・進捗が十分でなかった項目・内容（理由）・令和8年度に向けた考え
• ①について、本市の地域コミュニティビジョンも踏まえ、引き続き、地域での意見交換を実施するとともに関係課による協議を踏まえ、具体案の検討を進めていく。 • ②について、さらに地域に入り込み、地域資源の発掘・磨き上げ・発信に取り組むことで市内外から人を呼び込み、稼ぐ力を生み出していく。 • ③について、令和7年度に作成したたたき台をベースに区及び本庁の関係課による意見を踏まえ、将来の区役所の機能・レイアウトの設計に着手していく。 • プロジェクトに関わる職員は本来業務がある中、限られた人数で取り組んでおり、全体のマネジメントに難しさがあるため、戦略ラインを中心に適切な人員配置や進行管理に努めていく。

小倉南区 X方針　課題一覧

課題領域Ａ

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
市民サービス	「親子ストレス・フリー」区役所への変革	• 区役所の余剰スペースを活用し、親子連れの来庁者特有の「待ち時間」と「手続き中」の2つのフェーズでの余計なストレスをゼロへ
地域コミュニティ	日常的な地域情報の把握と共有（校区担当の機能強化）	担当職員の日常的な • 地域訪問とコミュニケーションの深化 • 関係課間での情報共有・連携向上

課題領域Ｂ

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
市民サービス	現役世代・子育て世代のニーズに合わせた柔軟な市民センターの運営	• モデル校区による市民センターのあり方検討（ヒアリングやアンケートの実施、日曜開館の検討など）
地域コミュニティ	時代の変化や地域特性に応じた新たな持続可能な地域コミュニティの形成	地域コミュニティのリ・デザインに向けた • 多様な地域コミュニティとの情報交換（校区キャラバン、茶話会（仮）など） • 校区カルテ作成による地域人財の蓄積
地域資源活用	地域資源の活用と人材育成	• 区役所職員による地域へのダイブと地域資源の掘り起こしや磨き上げ

課題領域Ｃ

政策分野	課題名	課題に対する取り組み
市民サービス、地域コミュニティ、地域資源活用	区役所の一歩先の価値観を体現する「未来型区役所」のデザイン	• 企画・政策立案機能の強化（地域資源の活用） • 持続可能な新たな地域コミュニティの形成 • 将来の区役所の機能・レイアウトの設計

【凡例】
〇課題領域
Ａ　・行政サービス現場改善にかかる課題
Ｂ　・課題の掘り起こし が済み、変革の実行段階にあるもの
　　・課題の掘り起こしを更に進め、実行段階へ繋げていくもの
Ｃ　・将来を見据えて、今から着手しなければならない課題

4　課題

課題Ａ（１）「親子ストレス・フリー」区役所への変革【政策分野：市民サービス】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：低】【緊急度：高】

②課題の内容

現在の小倉南区役所の庁舎レイアウトでは、通路幅やカウンターが親子連れを想定した設計になっておらず、「待ち時間」と「手続き中」の2つのフェーズで余計なストレスがかかってしまっている。

③課題の背景や現状

一般的に区役所は、用事がない限りほとんど訪れない場所である。このため、区役所に行くだけで気が重く、煩わしいと感じる中、親子連れの来庁者には、「待ち時間」と「手続き中」の2つのフェーズでお子さんにも注意を払わなければいけないという特有のストレスもかかる。子ども・家庭相談コーナー窓口周辺には、親子で過ごせる空間がなく、手続きカウンターにも広さの余裕がなく、親子連れ来庁者のストレス軽減ができない。

一方、庁舎内では、令和8年度内に小倉南税務課の移転で余剰スペースが生じ、地域のNPO等のコワーキングスペースでの活用が計画されている。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

・　親子連れの来庁者の実感として、区役所が煩わしい場所から、親子連れでも普通に困らない場所（ユニバーサルな窓口環境）へ
・　保護者が手続きに集中できる環境を整えることでの、記載ミス等の削減や事務効率の向上による手続き時間短縮の効果が期待
・　職員の接遇意識の変革（市民目線のサービス実践）による市民サービスの質の向上

⑤令和8年度の取組内容（四半期間隔）

①「待ち時間」のストレス解消（滞在の質の向上）
キッズスペースや授乳室の設置で、子どもを「静かにさせておかなければならない」という保護者のプレッシャーを直接軽減する。
②「手続き中」のストレス解消（接客の質の向上）
カウンターの仕様変更（例えば、ベビーカーを横付けできるスペースの確保など）を行う。
③ コワーキングスペースの計画変更
取組みの中で見えてきた課題を優先し、令和9年度以降の余剰スペース活用策の中で検討する。
④ ステップ・バイ・ステップでの実施（段階的改善）
①②の実施は予算措置の状況に左右される。大規模な改修予算の状況に関わらず、既存備品の配置見直しや簡易的なキッズマットの設置など、現場の工夫で実現可能な「プランB」を並行して策定し、段階的に改善を進める。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• レイアウト（プランB含む）考案 • 予算算定	• 本庁に予算要求	• 予算状況に応じた実施準備	• 完了

4　課題

課題Ａ（２）日常的な地域情報の把握と共有（校区担当の機能強化）【政策分野：地域コミュニティ】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：低】【緊急度：高】

②課題の内容

　各校区には様々な課題、特色ある取組み、自慢したいことがある（生活環境・健康・福祉・自然・歴史・文化・人など）。これらは小倉南区のまちづくりを進める上で重要な資源（情報・素材）であり、区職員が、校区に関心を持ち関わりを深めながら情報を収集し、共有・発信までを積極的に担う意識と行動が必要。

③課題の背景や現状

　区役所各課では、各担当が地域と日常的につながりを持ちつつも、課題や取組み等情報の収集や深堀、課内や関係課間での共有、外部への発信などが十分とは言える状況にない。
　令和７年度に、まずはコミュニティ支援課にて校区担当の役割意識醸成に取り組み、以前より地域との情報交換・関係性構築が進展しており、更に関係課間での連携を促し、区役所が一枚岩となって地域と向き合うことが重要。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

- 校区との活発なコミュニケーションにより区役所との関係性が深まる。
- 職場での情報共有によって校区の速やかな課題解決や他校区活動の展開のヒントとなる。
- 校区情報のストックが充実することにより、効果的な地域PRにつながる。

⑤令和8年度の取組内容（四半期間隔）

① 校区担当の役割意識醸成・浸透
　担当職員による地域への訪問・情報収集などの日常化とコミュニケーションの活発化
② 関係課との連携促進
　各課校区担当者の見える化（名簿作成）と日常的な情報交換、課題解決への取り組み
③ 地域の情報蓄積とPR
　校区カルテへの情報蓄積、マスコミ等への情報発信

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・校区担当者名簿作成 ・地域訪問、情報収集・交換 ・地域行事への参加（防災、健康、福祉等） ・校区カルテ作成	（情報交換・取組連携）（日常的に実施） ・地域行事への参加（夏祭り、敬老行事等） ・情報更新	（情報交換・取組連携）（日常的に実施） ・地域行事への参加（文化祭、運動会等ど） ・情報更新	（情報交換・取組連携）（日常的に実施） ・地域行事への参加（新年会、春まつり等） ・情報更新

4　課題

課題Ｂ（１）現役世代・子育て世代のニーズに合わせた柔軟な市民センターの運営
【政策分野：市民サービス】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：高】【緊急度：低】

②課題の内容

持続可能な地域コミュニティの形成を進める上で、次世代のまちづくりの担い手を発掘・育成する必要があるが、地域コミュニティの拠点となる市民センターへの若年層利用が少ないなど、十分な機能を発揮していない

③課題の背景や現状

- 市民センター利用者は高齢化・固定化しており、新たな利用者を呼び込めていない。
- 地域づくりには幅広い年齢層や様々な個性や特技を持った人々の交流を期待し、その出会いの場として、多くの現役世代・子育て世代が利用したくなる・しやすいことが必要。
- 日曜開館は、①既存の利用者（クラブ活動）との調整　②センター職員（まちづくり協議会雇用職員）の出勤体制の調整　等の課題がある中、小倉南区では、曽根市民センター（R7.4～　第4日曜日のみ）、長尾市民センター（R8.4～）が実施。
- 多目的利用（R7.4～）では、NPO法人による有料イベントや企業による講座等での利用が可能となったが、希望日が既に予約済みだったりと、実際の利用につながっていない。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

- 市民センターの利便性の向上
- 幅広い年代・分野による交流の場、出会いの場の創出による生活満足度の向上

⑤令和8年度の取組内容（四半期間隔）

① モデル校区による市民センターのあり方検討
　ヒアリングやアンケートなどの実施、館長や関係者との意見交換
② 日曜開館のニーズ把握
　実施センターの状況・課題等の把握、未実施センターでのお試し実施などを通じた検討

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• モデル校区の選定 • 日曜開館や多目的利用の状況把握	・ヒアリングやアンケートなどの検討・実施 ・日曜開館や民間利用促進に向けた検討（お試し実施など）	・関係者との意見交換 ・日曜開館ニーズ把握、予算要求	• 検討とりまとめ • 次年度の取組検討 • 日曜開館や多目的利用のPR

4　課題

課題Ｂ（２）時代の変化や地域特性に応じた新たな持続可能な地域コミュニティの形成
【政策分野：地域コミュニティ】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：高】【緊急度：低】

②課題の内容

少子高齢化の進展等により地域を取り巻く課題が複雑化・多様化する一方、地域コミュニティの中心的な担い手である自治会への加入者は年々減少し、地域活動の継続が困難な地域も生じつつある。

③課題の背景や現状

- 働き続ける高齢者が増える傾向にあり、地域コミュニティの担い手不足は更に深刻化する。
- 地域コミュニティづくりは仕組みや制度に加えて「人」がポイントである。その拠点となる市民センターの館長は、まちとの関わりや熱量、目指すべき姿の共感と進め方、人脈の開拓など、重要な役割を担っている。
- 館長の任期満了（５年）により、地域のコーディネートがゼロ・リセットされることがないよう、館長とともに地域に入り込み、人を知り、人を動かす「人」の発掘・育成が必要。
- R6年度より、持続可能な地域コミュニティづくりに向けた意識づけの機会として、まちづくり協議会関係者や館長と共に学習会を開催している。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

- 持続可能な地域コミュニティへの関心喚起により、まちづくり協議会のあり方の見直し等の意義を再認識でき、具体的な行動に移すことができる。
- 市民センター館長の機能や役割の強化が図られることで、地域での新たなコミュニケーションが生まれ、市民にとっても交流機会、選択肢が増える。

⑤令和８年度の取組内容（四半期間隔）

① 持続可能な地域コミュニティづくりへの意識醸成
　・先進的な取り組みの共有
　・地域づくりに関するアドバイザー招へいによる学習会の開催
② 多様な地域コミュニティとの情報交換を通じた、地域コミュニティのあり方検討
　・校区キャラバン、情報交換会（仮）、次世代担い手との茶話会（仮）などの実施
③ 校区カルテ作成による地域人財の蓄積

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
・事例報告会 （校区会長会） ・校区キャラバン ・校区カルテ作成	・事例報告会 （校区会長会） ・情報交換会（仮） ・情報更新	・学習会 （講師招へい） ・茶話会（仮） ・情報更新	・次年度計画策定 ・情報交換のまとめ ・情報更新

課題Ｂ（３）地域資源の活用と人材育成【政策分野：地域資源活用】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：高】【緊急度：高】

②課題の内容

区役所は地域資源の活用による付加価値の最大化を目指すべき存在であるが、企画・政策立案機能と人材が不足している。

③課題の背景や現状

地域に一番近い区役所は、これまで以上に地域と関わり、人と人をつなぎ、地域資源の活用策を探ることによって、市の発展に貢献すべき存在である。
今後の市役所の発展のためには、区役所に在籍する若手を含めた職員等が地域に飛び込むことで地域の実情を理解し、課題の解決や発展のための方策を考え、実行する力を身につける必要がある。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

- 地域に飛び込む区役所と民間事業者等が協働して地域資源の掘り起こしや磨き上げを行うことで新しい人間関係と活力が生まれる。また職員の能力や資質の向上によって提供する行政サービスの質も向上する。

⑤令和8年度の取組内容（四半期間隔）

（1）地域資源の発掘・磨き上げ・発信
- 区幹部職員等による部署横断的な「小倉南区戦略会議」で新たに策定した戦略プロジェクトについて、着実に推進する。これらのプロジェクトの進行管理は、戦略実施本部が担う。
- R7年度に引き続き、これまで十分に把握できていなかった食・自然・人などの魅力的な地域資源に改めて着目し、その価値を可視化するとともに、メディア等を通じて積極的に発信する。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• 部会の開催 • プロジェクト着手	• 部会の開催 • 中間成果報告	• 部会の開催 • アウトプット等達成状況報告	• 成果発表・報告 • 次年度企画作成

（2）平尾台のリブランディング
- 関係課と連携し、付加価値の高い体験を取り入れたネイチャーポジティブに関するモニターツアー・イベントを実施する

第1四半期（4～6月）	第2四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• 企画立案	• 関係先説明 • 受入準備	• ツアー受入（10月） • イベント実施（11月）	• 振り返り • 次年度企画作成

（3）三谷地区の観光振興（農泊、合馬神楽等の推進）
- R7年に設立した「地域振興協議会」を中心に、外部専門家の知見も活用しながら取組を継続する。また、取組の推進に必要な活動者・協力者のネットワークを拡大する。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• 企画立案	• 関係先説明 • 受入準備	• ツアー受入（10月） • イベント実施（11月）	• 振り返り • 次年度計画策定

4　課題

課題Ｃ（１）区役所の一歩先の価値観を体現する「未来型区役所」のデザイン
【政策分野：市民サービス、地域コミュニティ、地域資源活用】

①インパクト（政策課題）と緊急度のマトリクス	【インパクト：高】【緊急度：低】

②課題の内容

「スマらく区役所」等行政DXの進展による区役所機能の変化と持続可能な地域コミュニティのデザインを考えていくことは表裏一体の関係であることを踏まえ、新たな区役所のあり方や庁舎の利活用に関する青写真を描いておく必要がある。

③課題の背景や現状

- ＤＸに関連する諸施策が進捗し、効率的効果的な区役所運営が実現すると従来の業務に必要な人員が減り、庁舎内に余裕空間が生まれる。
- 区役所は地域に一番近い存在であり、地域資源の活用による付加価値の最大化を目指すための企画・政策立案や地域へのアウトリーチ機能を充実させるため、職員配置の模様替えが必要になる。

④目指す成果　－市民にとって何がどう変わるのか（サービスの質や価値、市民の実感）－

- ＤＸの浸透定着により行政サービスが利用しやすくなる。
- 人的資源の配分見直しによりアウトリーチを含めた対面による相談対応が充実する。
- 庁舎内の新たな空間資源（コワーキングスペース）での対面コミュニケーションによって地域団体や民間事業者のアイデアが持ち込みやすくなる。

⑤令和8年度の取組内容（四半期間隔）

（1）区幹部職員等による部署横断的な「小倉南区戦略会議」で新たに策定した戦略プロジェクトについて、着実に推進する。これらのプロジェクトの進行管理は、戦略実施本部が担う。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• 部会の開催 • プロジェクト着手	• 部会の開催 • 中間成果報告	• 部会の開催 • アウトプット等達成状況報告	• 成果発表・報告 • 次年度企画作成

（2）「未来型区役所のデザイン」を実行する体制の構築と推進（ハード）
スマらく進展の状況を踏まえ区役所庁舎内のデザインを適宜検討し、必要に応じて予算要求を行う。

第１四半期（4～6月）	第２四半期（7～9月）	第3四半期（10～12月）	第4四半期（1～3月）
• デザイン企画の検討	• デザイン企画の検討	• R9所要分予算要求	• R9分施工準備